

AKI-H8-USB 動作確認

動作中の写真：

以前の親基板というかマザーボードは、ユニバーサルボード的な色合いが強かったのですがこの親基板は、ユーザの要望をかなり反映してるみたいで、単に USBインタフェースが付いているにとどまらず、かなり使い勝手を改善してるようです。



構成は、USBインタフェースが付いた親基板上に、CPU基板と LCDが乗った形になっています。

AKI-H8-USBは、USBバスからの電源（ +5[V] ）で動作可能です。
（ 基板上に小さいDC-DCコンバータ（ +12[V] 30[mA] ）が搭載されており
それにより書き込み電圧を生成しています。 ）
（ 別電源から動かせるようにも配線を変えることができます。 ）

プログラムのダウンロードは、基板上のスイッチを WRITE状態にしてRS-232Cインタフェースにて行います。

USBは、送受信バッファ64byteを実装する専用LSIにて行われます。

I/Oの信号線は、親基板左側のピンから取り出せます。

親基板下側には動作テスト用のスイッチとLEDが4つずつ実装されています。

オプションで、親基板裏側にフラットパッケージのS-RAMチップ1個を
がマウント出来るようパターンがあります。
（ 容量は、128Kbyte または 512kbyte ）

USB動作テスト：

添付 CD-R には、製作時の写真や、テストプログラム動作中のAVIファイルが格納されています。もちろん、開発環境もです。

そのなかで、動作確認用のテストプログラム usbjoyを動作させてみました。もう一つ、usbtestというプログラムもあったのですが、そっちは Windows98の環境のせいかなに動作しませんでした。（Windows側のドライバの組み込みに失敗してるようです。）

usbjoyは、AKI-H8-USB基板を 6 ボタンのジョイスティックに見せかけてWindowsに認識させるテストプログラムです。

AKI-H8-USB側のスイッチを押すとその情報が USB経由でWindowsに認識され ジョイスティックのプロパティのテスト表示にてモニターできます。

